

令和7年2月10日

各位

トモニホールディングスグループの令和7年3月期第3四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：中村 武）は、令和7年3月期第3四半期（令和6年4月1日～令和6年12月31日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島大正銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：板東豊彦）及び香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：山田径男）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス

（1）令和7年3月期第3四半期（令和6年4月1日～令和6年12月31日）連結業績

当第3四半期における損益状況は、経常収益は、株式等売却益の減少によりその他経常収益が減少したものの、貸出金利息及び有価証券利息配当金の増加により資金運用収益が増加したことに加え、役員取引等収益が増加したこと等により、前年同期比4,887百万円増加して69,082百万円となりました。経常費用は、国債等債券売却損及び与信関連費用の減少によりその他業務費用及びその他経常費用が減少したものの、預金利息の増加により資金調達費用が増加したことに加え、物件費の増加により営業経費が増加したこと等により、前年同期比577百万円増加して48,728百万円となりました。その結果、経常利益は、前年同期比4,309百万円増加して20,353百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比3,749百万円増加して14,202百万円となりました。

当第3四半期末における主要勘定残高の状況は、総資産残高は、前年度末比1,775億円増加して4兆9,879億円となり、純資産残高は、前年度末比76億円増加して2,850億円となりました。また、譲渡性預金を含む預金等残高は、前年度末比1,858億円増加して4兆5,230億円、貸出金残高は、前年度末比1,377億円増加して3兆6,935億円、有価証券残高は、前年度末比1,025億円増加して7,897億円となりました。

		令和7年3月期 第3四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	69,082百万円	4,887百万円
	経常費用	48,728百万円	577百万円
	経常利益	20,353百万円	4,309百万円
	親会社株主に帰属する四半期純利益	14,202百万円	3,749百万円
		令和7年3月期 第3四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	49,879億円	1,775億円
	純資産	2,850億円	76億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	45,230億円	1,858億円
	貸出金	36,935億円	1,377億円
	有価証券	7,897億円	1,025億円
	自己資本比率（国内基準）	9.23%	0.00%

（2）令和7年3月期通期（令和6年4月1日～令和7年3月31日）連結業績予想

令和6年11月12日に公表しております令和7年3月期通期の連結業績予想につきましては、修正ございません。

2. 徳島大正銀行

(1) 令和7年3月期第3四半期(令和6年4月1日~令和6年12月31日)単体業績

当第3四半期の損益状況は、経常収益は、貸出金利息、有価証券利息配当金及び役員取引等収益が増加したこと等により、前年同期比2,534百万円増加して38,037百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前年同期比1,334百万円増加して24,551百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比659百万円増加して10,602百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用が減少したこと等により、前年同期比1,559百万円増加して10,751百万円となり、四半期純利益は、前年同期比1,145百万円増加して7,237百万円となりました。

当第3四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比564億円増加して2兆4,505億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比710億円増加して2兆5,993億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比656億円増加して2兆484億円となりました。なお、自己資本比率(国内基準)は8.45%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比1,944百万円減少して35,027百万円、総与信に占める割合は1.68%となりました。

		令和7年3月期 第3四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	38,037百万円	2,534百万円
	コア業務粗利益	24,551百万円	1,334百万円
	コア業務純益	10,602百万円	659百万円
	経常利益	10,751百万円	1,559百万円
	四半期純利益	7,237百万円	1,145百万円
	本業利益(外貨調達コスト控除後)	6,503百万円	43百万円
	与信関連費用	604百万円	△111百万円
		令和7年3月期 第3四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	26,559億円	401億円
	預金等(譲渡性預金を含む)	24,505億円	564億円
	総預り資産	25,993億円	710億円
	貸出金	20,484億円	656億円
	有価証券	4,311億円	490億円
	自己資本比率(国内基準)	8.45%	△0.04%
不良債権	金融再生法開示債権額	35,027百万円	△1,944百万円
	総与信に占める割合	1.68%	△0.15%

3. 香川銀行

(1) 令和7年3月期第3四半期（令和6年4月1日～令和6年12月31日）単体業績

当第3四半期の損益状況は、経常収益は、貸出金利息、有価証券利息配当金及び役員取引等収益が増加したこと等により、前年同期比2,029百万円増加して26,756百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前年同期比2,210百万円増加して20,258百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比1,893百万円増加して9,134百万円となりました。

経常利益は、前年同期比2,344百万円増加して9,299百万円となり、四半期純利益は、前年同期比2,239百万円増加して6,777百万円となりました。

当第3四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比1,300億円増加して2兆782億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比1,347億円増加して2兆2,261億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比726億円増加して1兆6,544億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は9.89%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比1,202百万円増加して32,378百万円、総与信に占める割合は1.90%となりました。

		令和7年3月期 第3四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	26,756百万円	2,029百万円
	コア業務粗利益	20,258百万円	2,210百万円
	コア業務純益	9,134百万円	1,893百万円
	経常利益	9,299百万円	2,344百万円
	四半期純利益	6,777百万円	2,239百万円
	本業利益（外貨調達コスト控除後）	6,020百万円	1,025百万円
	与信関連費用	△392百万円	△858百万円
		令和7年3月期 第3四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	23,231億円	1,367億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	20,782億円	1,300億円
	総預り資産	22,261億円	1,347億円
	貸出金	16,544億円	726億円
	有価証券	3,571億円	537億円
	自己資本比率（国内基準）	9.89%	△0.03%
不良債権	金融再生法開示債権額	32,378百万円	1,202百万円
	総与信に占める割合	1.90%	△0.02%

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部

TEL：087-812-0102

株式会社徳島大正銀行 企画部

TEL：088-656-1118

株式会社香川銀行 総合企画部

TEL：087-812-5132